



副園長 奥村 綾

～1年を振り返って～

2か月遅れでスタートした令和2年度も終わりに近づいてきました。

6月、子ども達と再会した時には、やっとスタートできた安堵感とともに、子ども達の姿や心持ちがどのような状態なのかと、私たち職員は不安感も大きかったのですが、そんな私たちの心配を吹き飛ばすかのように、保育室や園庭には子ども達の賑やかな声が響き、すぐに幼稚園生活に慣れた姿を見て、改めて子どもの持つ力に驚かされました。

今年度は、分散登園で始まり、少人数で過ごしたことで、一人ひとりとじっくりゆっくり関わることができたことや、送迎コースが9月スタートだったため、朝登園してきた際、保育室には毎日担任の先生が待っているという環境も、不安な気持ちがある子ども達にとっては、安心して過ごせるとてもいい環境でのスタートになったと思います。

7月に予定していた『七夕まつり』は、子ども達の提案で『七夕』について取り組むことができ、ゆっくりと時間をかけて、遊びの中の一環として、七夕の雰囲気味わうことができました。また、幼稚園で制作するだけでなく、笹飾りの材料を持ち帰り、おうちの人と一緒に作ってもらう喜びも味わうことができ、例年通りの行事ではなく、改めて七夕の過ごし方を見直すことができました。

10月の運動会では、人数制限や時間短縮など、保護者の皆さんにはご不便をおかけしましたが、「子ども達が生き生きとした表情で楽しんでいる姿に感動しました。」「ライブ配信があったので、遠方の親戚にも見ってもらうことができ喜んでいました。」「人数制限したことで、ゆったりと座れて子ども達の様子をゆっくりと観ることができました。」等というご意見をいただき、開催できた喜びを感じました。内容的にも、子ども達の、日頃の運動遊びの様子を見ていただく場として捉え、子ども主体で進めていけるように工夫して取り組めたことで、当日は生き生きとした表情で演技や競技に参加する様子を見ていただけたのではないかと思います。

今年度は、年間を通して、『うきうきタイム』を充実し、一人ひとりが安心できる環境・楽しめる環境や、一人ひとりの育ちに目を向けて保育を行うことを大切にしてきました。そんな中、子どもの興味や関わり合う姿から、たくさんの育ち合いが見られました。

ここ数年、年少に関わってきた先生も、

『子ども発信で、子どもから伝えてくれることが増えた』『教師が間に入らなくても、自分たちで遊びを発展できるようになった』『教師に尋ねる前に、友達と一緒に考えることが増えた』『子ども同士が協力する場面が見られた』『新しい発見をしたという言葉が子どもの中で増えた』『やりたい!!どうしたらいい?と考える場面が増えた』等、例年よりも、子どもの主体性の育ちを実感しています。

子ども同士関わり合う時間が増えたこと、やり取りが増えたことで、意見のぶつかり合いやトラブルも多くなっています。ケンカの原因や状況を聞いていくと、子ども達の中に「怒り」や「悲しみ」「悔しさ」「イライラ」など、いろいろな感情が渦巻いているのを感じられます。

「おもちゃを貸してもらえなくて悔しかったね。」「一緒に遊んでももらえなくて、寂しかったね。」「嫌なことを言われて辛かったね。」と、子どもの感情・気持ちに共感することで、子どもの心の成長につながっていきます。先生達は、介入したり、時には見守ったりしながら、

「言い返せるようになってるな。」「我慢できるようになったな。」「待てるようになったな。」「自分の気持ちを言えるようになったな。」等、子どもの変化や成長に気づき、その場の状況を把握しながら関わっています。

年長組では、「いま、どんなきもち？」(大阪府人権教育協議会)のカードを使って、感情に「よい」や「わるい」がないことを知らせ、みんなで考える時間を作っています。先ほどの子どもの中にある感情の他にも「喜び」「楽しみ」など様々なものがあります。そのどれもが“大切な自分の気持ち”です。様々な自分の気持ちに気づき、その気持ちに向き合うことで、自分をコントロールすることや、折り合いをつけること、協調性なども学んでいきます。また相手を思いやる気持ち等も芽生えます。このように、自分の感情を客観的に見ることが出来る経験をたくさんすることで、生きる力を持った人間性豊かな子どもに育っていくのだと思います。

『生活発表会』は、1年の集大成ということで、保護者のみなさんも楽しみにしておられたと思いますし、中止になって残念という声も多くの方からお聞きしました。

例年、12月末頃から発表会に向けて話し合い、1月中旬ごろからは、舞台練習の時間帯を決めて、発表会当日に向けて、各クラス取り組んでいましたが、できるだけ本番に完成した形を観ていただくとするあまり、時間に追われたり、内容によっては、毎日『練習』という形になることもあり、子ども達が楽しんで遊び込んできた過程を伝えることが、困難であると感じることがありました。

今年度は、コロナ禍で、例年通りに行事等が行えない中、「これまで通りのやり方で良いのか」「子どものための行事になっていたのか」等、一つひとつの行事のあり方について、見直す機会が多くありました。

今回、日常の子ども達の姿を動画で配信する形式に変更したことで、舞台での発表という形や、日程にとられず、時間に追われることなく、それぞれクラスで盛り上がっている遊びを十分に発展できた様子や、満足するまで遊び込んでいる様子等を、保護者の皆さんにお伝えすることができたように思います。

また、先生達にとっても、一人ひとりと、しっかりと、ゆっくりと、向き合える時間が取れたり、動画を撮ることで、以前よりも子どもの様子をよく観察することができ、育ちを深く読み見るができるようになったと思います。

ただ、表現活動や造形活動等、保護者の皆さんの前で発表できる場も、子どもの育ちにとって大切な活動であると考えますので、次年度に向けての課題として職員で話し合いを行い、コロナ禍でも子どもの育ちに必要な活動を取り入れていきたいと思っています。

まだまだコロナ収束の見通しはたっていませんが、この状況をプラスに捉え、保護者の皆様からのご意見も取り入れながら、次年度も、保護者の皆さんと子どもの育ちをもっと共有できるようにしていきたいと思っています。